

様式1 平成30年度 山梨県立富士見支援学校本校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちの病状に配慮し、健康の回復を図りながら、義務教育における学習空白を補完するとともに、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	---

山梨県立富士見支援学校校長 石原 一彦

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。 2 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。 3 病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	年度末評価(12月20日現在)		
				方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	児童生徒の実態に即した支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別の教育支援計画を作成・活用する。個別の指導計画に基づいた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善を図る。 ICT教材の活用や体験的活動など、指導法を工夫することにより、わかる喜びを実感できる授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	・個別の教育支援計画については、卒業・進学に向け、児童の病状と合理的配慮について詳細に記した資料を提示・伝達することができた。 ・個別の指導計画については、詳細な記述を基に客観的な指標を用いて評価を行い、その妥当性については職員間の協議を通して十分に検証することができた。 ・「授業実践」の提案や意見交換、情報交換を中心とした学部研究会を継続してきた結果、これまでの成果の上積みを図ることができた。異校種間授業参観や校内研修会などを通して、授業力を高める一助につながった。
2	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。 保健教育や道徳教育を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	・各児童生徒につけさせたい力を、学部ことや関係教師間で確認しつつ、具体的な指導方法を検討し、学校生活全般で実施できた。 ・進路指導年間計画を参考に各学年で実態に合った指導ができた。特に卒業学年では、両学部とも児童生徒及び保護者の希望を丁寧に聞き取り合意形成し進路を決定することができた。 ・教科や自立活動を通して心身の状況把握や課題に向けた取り組みができた。養護教諭による保健指導は、継続的な指導となり成果をあげた。 ・道徳教育全体計画に基づき実施した。学園祭などの学校行事や学校生活における様々な場面において体験的に学び社会性と育むことができた。
3	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	病弱児教育に関する専門性の充実を図り、信頼される学校づくりを行う。	積極的な情報発信を行い、病弱児教育への理解と啓発に努めるとともに、関係機関との連携を充実させる。 教育委員会による「高校生ころのサポートルーム活用事業」により、本校が高校生ころのサポートルームの運営主体となったことに伴い、関係機関及び高等学校との連携をさらに深め、相談支援の充実にも努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%) 児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	A	・HPやブログ、学校だより等内容の充実を図り、本校の教育の情報発信に努めた。 ・病弱連携協議会は、病弱学級が増加する中で、医療・福祉・教育関係者や市町村教育委員会の理解協力のもと運営実施し、病弱学級担当者の連携強化、資質向上につながった。 ・今年度は21校の利用があり、26年度の試行から、すべての全日制高校から支援依頼があった。 ・在籍校や関係機関と丁寧に情報共有することで、生徒支援に直接あたる教員の理解を深め、教員の支えに繋げることができ、事業の目的達成に貢献した。また高校の相談支援体制の構築や充実につながった。

学校関係者評価	
実施日(平成31年2月19日)	
評価	意見・要望等
4	・学校行事等に様々な活動を取り入れ、児童生徒が主体的・体験的に学ぶことのできる学習環境が提供されていると考えます。教育活動や指導内容が工夫されており、保護者への対応も丁寧に行われていると考えられます。 ・特性のある子どもたちに対し、適した教育を行っており、全く問題ありません。また新しいアイデアも豊富で感心させられます。 ・学校生活が必ずしも楽しくなかった子どもや身体的理由で地域の学校を離れていく子どもが富士見に通学しはじめ、いつも楽しそうにいきいきしているのを見て「学ぶことは楽しいことなんだな」と今頃認識しています。
4	・キャリア教育の実施内容等について本校と分校との間での情報交換、共有を増やし、その継続性・体系性を高めていくことがより望ましいと考えます。 ・診療を通して子どもたちと接しているが、道徳心や考え方の成長が感じられ良い教育が行われていると考えます。 ・主に「心の問題」を抱える生徒の在籍は今後も増えていくと思います。本来の病弱児以上の需要が増えていることを県が把握しているか心配です。どういった子どもを富士見で受け入れていくのかの明確な基準設定と需要を正しく県に認識してもらい必要な人員と設備を保障してもらう必要があると思います。
4	・「こころのサポートルーム」は支援を要する子どもとその家族、学校などの関係機関を支える重要な役割を果たしていると思いますので、運営が安定するよう全体的なバックアップが必要であると考えます。 ・積極的に病気というものの理解に努めていると思います。またそれに対して対策を的確に考えられていると考えます。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。